

先週の説教要旨

『ゲッセマネの祈り』井上隆晶牧師
ヘブライ 5:5~10、マタイ 26:36~46

①【ゲッセマネの祈り】ゲッセマネの園はオリーブ山にあり、周囲が石垣に囲まれたオリーブ畑でした。イエス様たちはいつもここで祈りをしていました。弟子たちに「私が向こうに行って祈っている間、ここに座っていなさい」と言われ、ペトロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて少し離れた所で、祈り始められました。「悲しみもだえ始められた」(37節)とか「私は死ぬばかりに悲しい」(38節)という言葉が書かれています。こういう表現は始めてです。こんなイエス様を弟子たちは見たことがなかったでしょう。悪魔は荒野の誘惑の後、一度イエス様を離れませんが、最後に戻って来ました。ここでイエス様が受けた誘惑とは、神の意志に最後まで従順であるかどうかというものでした。

②【神の意志と人間の意志】イエス様は「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。」(39節)と祈りました。「この杯」とは十字架のことです。「できれば自分が死ぬという方法を避けられないのでしょうか。父よ、あなたから遠ざけられることは、死ぬほど恐ろしいのです。」と祈ったのです。この祈りは、本来私たち人間がしなければならぬものです。でも、人間は神から離れても平気であり、恐れを感じず、罪と死に慣れ、それに麻痺しています。しかしイエス様は違います。一時でも神から離れたことはなく、命の本体である方は罪も死も慣れたことがないのです。教会は伝統的にキリストには《神性と人間性》という二つの性質が完全に備わっていると告白します。

完全な神であり、同時に完全な人間なのです。それと共に二つの意志が備わっていると告白します。それは《神イエスの意志と、人間イエスの意志》です。それを「両意論」といいます。イエスの人間性の意志は、神性の意志にいつも浸透し、神のように意志しましたが、そのためには血の滲むような努力があったのです。この祈りは、人間イエスの意志を、神の意志に合わせようとしている祈りなのです。祈りが意志を合わせる方法なのです。人間はいつもこの二つが離れており、たまに一つの線になります。この「わたしの願いどおりではなく、御心のままに」という祈りは、キリスト教独自の祈りであり、他の宗教は自分の願いをかなえてもらうことを祈ります。キリスト教は、神の思いが成ることを祈るのです。皆さんは主の祈りの中で「御心の天に行われるとおりに、地にも行われますように」と祈るでしょう。それは「神の意志が、地である私の上に行われますように」と祈っているのです。

③【祈りは目を覚ますための最善の方法であること】イエス様が戻って来ると弟子たちは眠っていました。「わずか一時もわたしと共に目を覚ましていられなかったのか。誘惑に陥らぬように目を覚まして祈っていなさい。心は燃えても、肉体は弱い。」(41節)とされました。この夜、弟子たちは皆眠り、目を覚ましていたのは裏切ったユダだけでした。人間は神に対しては「眠り」、悪(自分の欲望)に対してはたやすく「目を覚ます」ものです。祈っていると必ず見えてくることがあります。それは自分の罪と神の愛です。アルコール依存の人の多くが言うのは「自分は依存症ではない。治療しなくても良い」という言葉です。病感があっても病識がないのです。何かおかしいと事は気がついているのですが、病氣だと認めないのです。だから治療もしません。罪はそれと良く似ています。自分は罪

週報

日本キリスト教団 都島教会

伝道所設立1957年12月1日 教会設立2001年12月2日
〒534-0012 大阪市都島区御幸町2-6-17

TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120

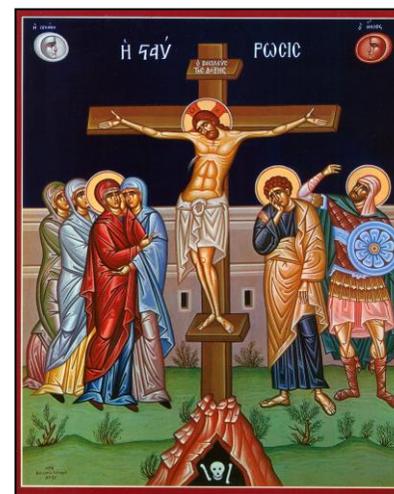
Eメールアドレス: miyakoch@eagle.ocn.ne.jp

ホームページアドレス: <https://miyako.jima-church1.com>

郵便振替00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所

主任牧師 井上隆晶

2025年3月30日 No.1813



《十字架》

都島教会の2024年度の宣教方針

標語 《会堂建築の準備をしよう》

聖句 「イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません。」(Iコリント3:11)

2024年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均27名を目指します。
- 2 一年間に一人を礼拝にお誘いします。
- 3 会堂建築のための具体的な準備をします。
- 4 皆で教会を建てる意識を育てます。